

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2018. 12. 13◆◆◆

【 四国地方整備局 港湾空港部長 】

昨年7月から港湾空港部長を拝命しております宮島です。着任から1年半近くになり、鉄道や自転車などで沿岸部を中心に各地を回り、八十八箇所も一巡して、ある程度土地勘ができてきました。引き続き、まだ訪れていない島々などを回っていかうと思っています。

さて、早くも年末が間近に迫り、いよいよ平成の元号が変わる年を迎えます。本年1年を振り返りますと、やはり自然災害の多さとその被害規模の大きさが際だって記憶に刻まれています。年の後半だけでも7月豪雨、台風21号と24号など、自然の脅威に直面する災害が続きました。改めまして、これらの災害により亡くなられた方に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

四国地方整備局管内の港湾関連では、施設等の被災に加え、大きな教訓となったのが、7月豪雨災害で瀬戸内海を中心に発生した流木や葦等の大量の漂流物でした。漂流物が船に衝突したりスクリューにからまったりすると損傷や故障につながりますので、船舶航行の安全を確保するため海洋環境整備船3隻が総力をあげて漂流物の回収にあたりました。7月8日からの1か月間の回収量は約3,200m³で、3隻の過去5年間の「年」平均回収量の約1.8倍もの量に達しました。

海上の漂流物の回収は、陸上から見えにくいところで作業しているため、なかなかイメージしにくいかもしれませんが、海洋環境整備船の双胴の間にある大型のカゴで漂流物をすくい上げるか、流木のような長大物はクレーンでつかみ上げます。漂流物は、潮の流れがぶつかる「潮目」の付近に集まることが多いのですが、瀬戸内海ではその位置が刻々と変わるため、各方面から得た情報をもとに海洋環境整備船の作業範囲を機動的に移動させます。加えて7月豪雨災害の対応では、包括協定団体と連携した「瀬取り」を行うなど、漂流物回収の効率化を図りました。しかし、非常に大量の漂流物に対しては、まだまだ回収の効率性を高める必要があることも痛感したところで

す。瀬戸内海沿岸は、造船、製紙、化学、非鉄金属、石油・石炭等の産業が立地し、四国のGDPの6割以上、製造品出荷額の7割以上を占めています。原材料や製造品等々の輸送は、大部分を海上輸送に依存しており、その途絶は大きな経済損失につながります。また、島々を結ぶ離島航路は住民の皆さんの生活の足であり、日々の生活に欠かせません。7月豪雨災害では、離島航路の一部で夜間の運航取り止めの判断をされたところがあるものの、海上の人流・物流ネットワークの途絶には至りませんでした。また、豪雨災害による陸上交通の障害の影響からフェリーの利用が大幅に増加しており、災害時の海上輸送の重要性も再認識できました。懸念される大規模な災害に備え、訓練を重ねるとともに他の整備局・海上保安庁等の関係機関との連携をさらに強めてまいります。

大変長くなってしまいましたが、最後にクルーズ船の話題を少しご紹介させていただきます。四国内の各港へのクルーズ船の寄港回数も年々増加しており、平成29年は四国全体で93回で前年比1.6倍超、平成30年は190回程度で前年比2倍程度になると見込

まれています。平成31年には高松港と松山港にダイヤモンドプリンセスが寄港を予定しているほか、高知港、宇和島港、徳島小松島港などなど、着々と新たな寄港予約も入っています。四国各港への寄港拡大や受入れの円滑化に向けて、関係機関との連携のほか整備局間での連携も進めているところです。これらの取り組みを通じて、四国経済の活性化と四国のさらなる発展に貢献していきたいと考えております。

皆様の迎えられる新たな1年が、健康で実り多き素晴らしい年となることを祈念申し上げます。引き続きどうぞよろしく願いいたします。

目次

- 四国地方整備局にて南海トラフ巨大地震を想定した総合防災訓練を実施しました
- 国土技術研究会で1名が最優秀賞、1名が優秀賞を受賞しました
- 一般国道56号 片坂バイパス（四万十町西IC～黒潮拳ノ川IC）開通について
- 「熱い・土器川プロジェクト」と河川管理の取組について
- 「四国横断道自動車道 宿毛～内海」の道路計画について意見聴取を実施しました。
- 今年もツル類の飛来を確認
～地域と連携・協働し「四万十つるの里づくり」を推進～
- 片坂バイパス開通前のイベント（ウォーキング）を行いました
- 横瀬川ダム建設事業の進捗状況について
- 働き方改革を進める新たな研修

四国地方整備局にて南海トラフ巨大地震を想定した総合防災訓練を実施しました

【 企画部 防災課 】

四国地方整備局において、「世界津波の日」（11月5日）の一環として、南海トラフを震源とする巨大地震を想定した総合防災訓練を実施しました。

- 日 時 平成30年11月 9日（金）9：00～15：00
- 場 所 四国地方整備局（高松サンポート合同庁舎 北館13階 災害対策室）
- 参加機関 高松地方气象台、四国地方測量部、
四国運輸局、陸上自衛隊第14旅団 等
- 訓練内容 11月9日午前7：30に室戸沖を震源とするマグニチュード9.0の南海トラフ巨大地震が発生した想定のもと、初動2日間の多様な各局面における基本導線を確認するための図上訓練を実施しました。

【災害対策本部における情報収集能力の模擬訓練】

四国地方整備局災害対策本部の運営にあたり、外部機関より提供される各種情報の共有や、災害対策用ヘリコプターによる被災状況の収集を実施しました。

- ・ 気象概況及び見通し資料の提供（高松地方气象台）
- ・ 被災地域の地図情報と発災後地図・上空写真及び取得予定資料の提供（四国地方測量部、第六管区海上保安部、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、四国航空（株））
- ・ 各機関の本部とりまとめ資料の提供（陸上自衛隊第14旅団、四国運輸局）

【災害対策本部運営訓練】

各場面における四国地方整備局の対応状況をシナリオ化し、それぞれの時点の対応内容を共有化しました。

- ・ 発災後 1 日目夜の第 4 回災害対策本部会議、 2 日目夜の第 7 回災害対策本部会議
及び大臣報告模擬
- ・ 災害対策本部各班から本部員へ対応状況等の報告及び相談模擬

【災害対策支部との TV 会議訓練】

津波警報等が解除された発災翌日の局面を想定し、 2 つの災害対策支部（中村河川
国道事務所・中村自治体支援ブロック拠点、小松島港湾・空港整備事務所）から TV
会議システムによる情報伝達訓練を実施しました。

総合防災訓練終了後、本部員による「振り返り」を実施し、訓練の実施や四国地方
整備局の防災上の課題をいただきました。以下に主な課題等をご紹介します。

- ・ 南海トラフ巨大地震における四国地方整備局の初動対応が具体化されていない事
項について、シナリオに盛り込むことが必要
- ・ 今回の総合防災訓練で使用した通れるマップは、道路の通行可否は作成されてい
たが、港路の通行可否にも対応したマップの作成が必要
- ・ 今後実施する総合防災訓練には、四国地方整備局がとるべき大局的な判断、対応
を踏まえたシナリオの作成が必要
- ・ 総合防災訓練とは別に、担当課が集まって、横串を刺すことを目的とした小規模
な訓練の定期的な開催を今後は考えるべき
- ・ 各種訓練のシナリオには、起こったら困る事象をシナリオ設定に盛り込むべき

発災初動時には、限られた情報や体制の中で、四国地方整備局としてどのように対
応すべきか検討する必要があります。今回の訓練でいただいた講評に対する改善を図
っていくとともに、各種訓練を通じて、非常体制時における組織体制の確認及び実効
性について検証を行い、防災計画等の継続的な改善を図ってまいります。

また、継続した訓練により、大規模災害に備えた災害対応の実効性向上に努めてま
いります。

国土技術研究会で 1 名が最優秀賞、 1 名が優秀賞を受賞しました

【 企画部 企画課 】

11 月 1、2 日の 2 日間、平成 30 年度国土交通省 国土技術研究会が、国土交通省
中央合同庁舎 2 号館、3 号館において開催されました。四国地方整備局からは 5 題を
発表し、そのうち 1 題が最優秀賞、1 題が優秀賞を受賞いたしました。

全国の地方整備局や自治体などから、一般部門＜安全・安心 I＞ 全 14 題、一般部
門＜安全・安心 II＞ 全 14 題、一般部門＜活力＞ 全 14 題、イノベーション部門 I
全 11 題、イノベーション部門 II 全 11 題、アカウンタビリティ部門 全 10 題、ポ
スターセッション 全 15 題の合計 89 題の発表がありました。数多くの発表の中で
『最優秀賞』と『優秀賞』の受賞があったことは大変誇らしいことです。

【ポスターセッション 最優秀賞】

「若手現場勉強会～「見るだけ」から「考える」へ～」
港湾空港部 吉松技官

【一般部門＜安全・安心 II＞ 優秀賞】

「一般国道 32 号「池田第一橋」における異常音発生の詳細調査報告」
徳島河川国道事務所 木内係長

一般国道56号 片坂バイパス（四万十町西IC～黒潮拳ノ川IC）開通について

【 中村河川国道事務所 】

中村河川国道事務所が平成17年度から整備を進めてきた「一般国道56号片坂バイパス（四万十町西IC～黒潮拳ノ川IC）」延長6.1kmが、平成30年11月17日（土）に開通しました。

当日は晴天に恵まれ、午前11時より四万十町金上野（四万十町西IC本線部）において、国土交通省、高知県、四万十町、黒潮町の主催で開通式典を執り行い、国会議員、高知県知事、四万十町長、黒潮町長及び関係者など約350名の方々にご出席いただきました。

式典では、主催者である国土交通省道路局長、高知県知事、四万十町長、黒潮町長からの挨拶の後、来賓の方々より祝辞があり、事業経過報告や祝電披露が行われました。

開通式典の後行われた開通セレモニーは、大正中学校音楽部・四万十高校音楽同好会によるジャズバンド演奏ではじまり、仁井田小学校・拳ノ川小学校の児童も参加した「テープカット」、開通記念パレードが行われました。式典終了後は四万十町及び黒潮町主催の「餅投げ」も行われました。

今回の開通により、急カーブや急勾配が連続し重大事故が発生している交通の難所「片坂」を回避することができ、安心・安全な交通の確保が期待されます。

今後も引き続き、窪川佐賀道路、佐賀大方道路の事業を推進してまいります。

「熱い・土器川プロジェクト」と河川管理の取組について

【 香川河川国道事務所 】

土器川では、土器川沿川の住民が土器川を身近に感じて関心を持ち、主体的かつ継続的な利用や維持が出来るよう、地域連携（住民、団体、行政、大学等の協働）により活動を推進する「熱い（ねつあい）・土器川プロジェクト」を平成29年度に立ち上げました。

平成30年度には、一般の方を対象として、NHKブラタモリの案内人をつとめた香川大学創造工学部長 長谷川修一教授の案内による、土器川沿川のまち歩きを6月3日（日）に、土器川かわ歩きを11月18日（日）に実施し、ブラタモリさながらに、ブラブラ散策を楽しみました。11月25日（日）には、地域住民による自発的な土器川の維持管理の取組を目指して、まんのう町民によるワークショップを開催しました。今後、頂いたアイデア等を展開しながら地域連携による取組を進めていきます。

また土器川では、樹林化による砂州の固定と、洪水が集中して流れるため流路の低下が起きる二極化の進行が課題となっています。そこで河床安定化対策として、乙井大橋付近から琴電祓川橋梁付近において河床を平滑化し、流路幅を広く取るための河床整正工事を実施しています。

その他、洪水等で土砂が堆積した箇所において、河床掘削工事の代行を条件とした河川砂利等の採取希望者を募集する「公募掘削」や、河川内に繁茂した樹林対策として、住民参加による「ボランティア伐採」や「公募伐採」の取組もあわせて実施しています。

今後も土器川では住民との地域連携と河川維持のための活動を積極的に行い、土器川の未来を創造していこうとしています。

「四国横断道自動車道 宿毛～内海」の道路計画について意見聴取を実施しました。

【 大洲河川国道事務所・中村河川国道事務所 】

平成30年9月～11月にかけて、四国横断自動車道「宿毛～内海間」の道路計画の策定にあたり、地域住民や国道56号の道路利用者などを対象にアンケートやオープンハウス、地元高校生等を対象とした意見交換会を実施しました。たくさんの回答を頂いており、関心の高さが伺えました。

現在、計画段階評価手続きの早期完了に向けて、アンケート結果等の取りまとめを行っているところです。

今年もツル類の飛来を確認

～地域と連携・協働し「四万十つるの里づくり」を推進～

【 中村河川国道事務所 】

中筋川では、ツルの「ねぐら」や「えさ場」となる湿地環境の再生を目的とした自然再生事業（ツルの里づくり）を推進しており、今年も四万十市の中筋川沿川にツルが飛来してきています。11月14日には約100羽を確認し、多くの新聞等でとりあげられました。また、「四万十つるの里づくりの会」との協働による自然体験学習会を開催し、東中筋小・中学校の皆さんとツルの模型の設置やえさ場周辺の草刈り作業を実施するなど、ツル類の保全に向けた取組を継続しています。

片坂バイパス開通前のイベント（ウォーキング）を行いました

【 中村河川国道事務所 】

一般国道56号片坂バイパスの開通1週間前の11月10日（土）にウォーキングイベント「たんけん！片坂ウォーキング！」を開催しました。

片坂バイパスは自動車専用道路で、開通前しか体験できないウォーキングイベントに、地元の方など約200人が参加し、約3.5kmのウォーキング、高さ約80mの市野瀬橋での記念撮影や、はたらく車の試乗体験などで皆様に楽しんでいただきました。秋晴れの中、イベント参加者から「車が通っていないところを歩いて、すごく気持ちよかったです。いい記念になりました。」等の感想をいただきました。

片坂バイパスは、急カーブや急勾配が連続し重大事故が多発している交通の難所「片坂」を回避することができ、安心・安全な交通の確保が期待されます。

横瀬川ダム建設事業の進捗状況について

【 中筋川総合開発工事事務所 】

平成30年11月1日時点で90%（高さ72.1mのうち60.5m）まで進んでいます。

横瀬川ダムは、中筋川流域において頻発する洪水被害を軽減し、四万十市の水道水の供給を確保するなどの多目的ダムとして建設するもので、平成31年度の完成を目指しています。宿毛市平田町に建設された中筋川ダムとともに、中筋川総合開発事業として中筋川流域の治水・利水・環境に貢献するものです。

地域の安全、安心のため一日でも早く完成させることを目標に、職員一丸となって事業に取り組んでいます。

働き方改革を進める新たな研修

【 四国技術事務所 】

平成30年11月20日（火）に、基礎技術研修「工事工程プロセス研修」を日本橋梁建設協会会員技術者の皆様を講師に迎え研修生19名、聴講者21名参加のもと開催しました。

研修の目的は、工事積算担当係長クラスを対象として、工事契約後、受注者が行う工事着手から完了までの工事实施プロセスの重要なポイントを習得するものです。

今回の研修は、鋼橋上部工施工時の隘路等について講義を頂き、続いて受講生による班別討議、全体討議を行うことで、現場における課題について理解を深めました。

受講生には大変好評で、全ての受講生から参考になったとの意見をいただきました。

他にも、「受注者の考え方を直接聞くことができ参考になった。」「受発注者間のコミュニケーションが大切と感じた。」などの意見があり、さらに受講生からは他職種及び継続の希望がありました。

今後も、「働き方改革」から「働きやすさ改革」へ、さらに「働きがい改革」を進めるためにも、受注者・発注者の双方に有意義な研修となるよう内容を向上させていただきます。

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

四国地方整備局Facebook

<https://www.facebook.com/shikokuchisei/>

自治体担当者様におかれましては、首長ご本人への転送とあわせて、職員の方への周知もお願いいたします。

「いきいき四国通信」に関するご意見、配信中止・配信先変更のご希望等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

国土交通省 四国地方整備局 企画部 「いきいき四国通信」事務局

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>
